

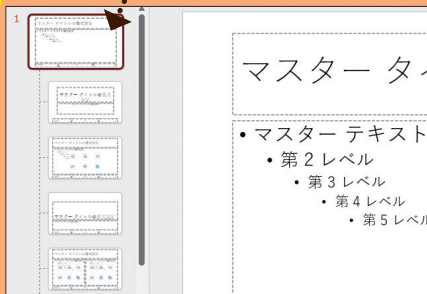


スライドマスターで雛形を作成する

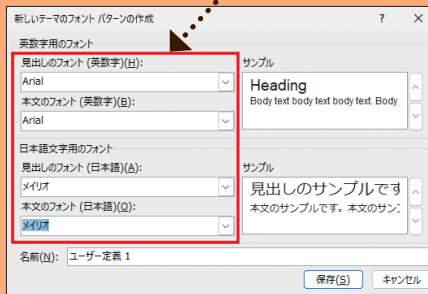
スライドマスターとは、プレゼン全体のデザインや書式を一括で設定できる「雛形」機能です。全体のフォントや配色を統一できるだけでなく、「タイトル用」「図解用」など目的に応じたレイアウト雛形を複数用意することで、資料作成の効率が高まり、見た目にも一貫性を持たせることができます。

Let's Try!

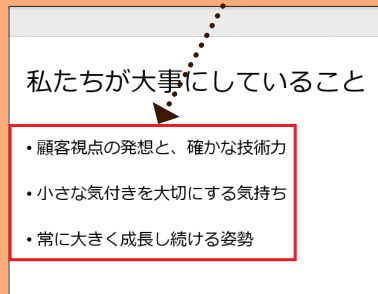
1 スライドマスター表示に切り替える



2 スライドマスターのフォントを設定する（日本語を「メイリオ」、英数字を「Arial」にする）



3 [タイトルとコンテンツ] レイアウトの行間を「2.0」に設定する



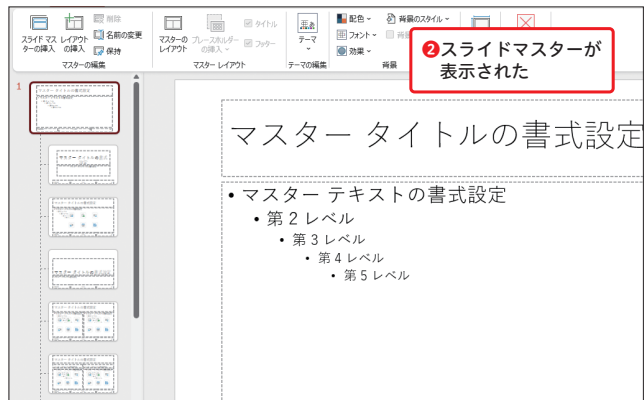
Hint | [表示] タブから画面表示を切り替える

[表示] タブの[スライドマスター]をクリックすると、編集画面がスライドマスター表示に切り替わります。この画面では、スライドレイアウトごとに書式などを設定でき、そこで行った変更は、該当するレイアウトを使ったすべてのスライドに反映されます。



Step 1 スライドマスター表示に切り替える

まずは、スライドマスター表示に切り替えましょう。[表示] タブの [スライドマスター] をクリックします。ここでは、画面表示がわかりにくいので、Pointの解説も合わせて確認してください。

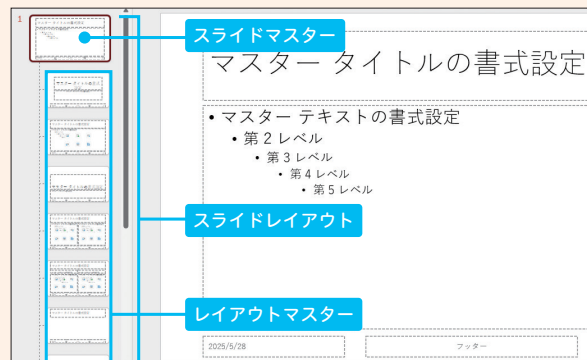


■ スライドマスターを閉じる場合



Point

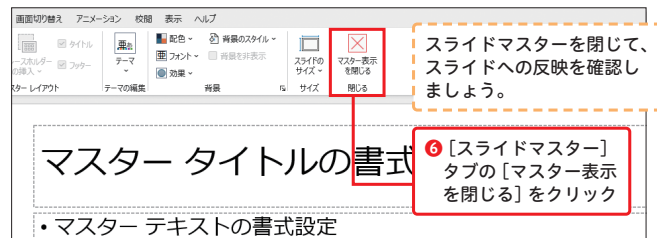
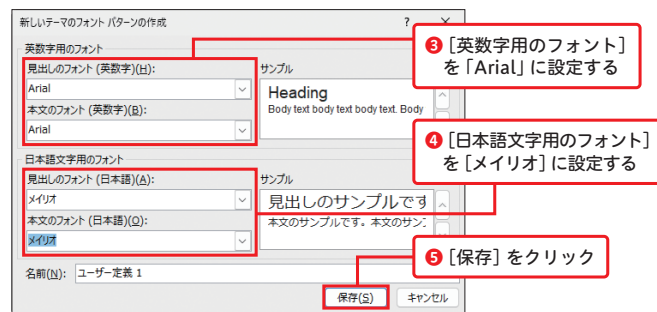
スライドマスター表示に切り替えると、画面左側にサムネイルウィンドウが表示されます。これは、実際のスライドではなく、「スライドのレイアウト」の一覧表示です。一番上のサムネイルは「スライドマスター」といい、すべてのスライドの元となります。ここで設定した内容はすべてのスライドに反映されます。そして、スライドマスターの下に続くサムネイルは「レイアウトマスター」といいます。レイアウトマスターでは、スライドのレイアウト単位で ([タイトルとコンテンツ]、[タイトル] など) 書式を設定したいときに利用します。



1 回目 ☐ 2 回目 ☐

Step 2 スライドマスターのフォントを設定する

このStepからDrill05にかけて、スライドマスターに登録しておく効率的な各種設定を順に行っていきます。まずは、資料全体の統一感を出すために、使用するフォントの指定をします。



Memo

1つのプレゼンに複数のフォントを利用すると、資料が多様な印象になります。そのため、スライドマスターでフォントを指定することは、視認性と効率の両面で効果的であるといえます。

Point

一般的には、文字量が多いデータは明朝体のほうが読みやすいとされています。しかし、プレゼン資料は基本的に1スライドの文字数が少ないため、ゴシック体のほうが適していると考えられます。和文には「メイリオ」「BIZ UDP ゴシック」、欧文には「Arial」「Segoe UI」などがよく使われます。

Step 3 [タイトルとコンテンツ] レイアウトの行間を「2.0」に設定する

ここでは、スライドマスターではなく、レイアウトマスターに書式を設定してみましょう。[タイトルとコンテンツ] レイアウトにのみ行間を広く設定して、視認性を向上させます。

スライドマスター表示に切り替えておきましょう。

1 [タイトルとコンテンツ] レイアウトをクリック

2 コンテンツ範囲を選択

3 [ホーム] タブの[行間] → [2.0] をクリック

マスター タイ

- マスター テキストの
 - 第 2 レベル
 - 第 3 レベル
 - 第 4 レベル
 - 第 5 レベル

マスター テキストの書式設定
第 2 レベル

スライドマスターを閉じて、スライドへの反映を確認しましょう。

4 [スライドマスター] タブの[マスター表示を閉じる]をクリック

5 [タイトルとコンテンツ] レイアウトのスライドに行間が設定されているのが確認できた

私たちが大事

- 顧客視点の発想と、確かな技術力
- 小さな気付きを大切にする気持ち
- 常に大きく成長し続ける姿勢

Point

スライドマスターで設定された各レイアウトは、新規スライドを挿入する際のレイアウトと直接対応しています。たとえば、このあとに[ホーム] タブから[新しいスライド]を選び、[タイトルとコンテンツ] レイアウトを使用すると、すでに行間が調整された状態のスライドが挿入されます。

レイアウトマスター

実際に挿入したスライド

マスタータイトルへの書式設定

- マスター テキストの書式設定
- 第 2 レベル
- 第 3 レベル

タイトルを入力

- 同じレイアウトのスライドを新しく
- すでに行間が設定されている



箇条書きの設定をマスターする

箇条書きはプレゼンでよく使われる要素です。使い次第で、情報を短時間でわかりやすく伝えられる効果があります。箇条書きが設定されたプレースホルダーを使う方法もありますが(P.21)、ここでは通常のテキストとして入力された文章を、あとから箇条書きに変換する操作を確認していきましょう。

Let's
Try!

1 本文を箇条書きに設定する

習慣1：時間の見える化

- 毎朝5分で「1日の予定」をリスト化する
- タスクに優先順位をつける
- 作業時間を計測するツールを使う(例:Toggl, Clockifyなど)

2 箇条書きの記号を連番にする

習慣2：振り返りの時間をつくる

- ① 1日の終わりに「できたこと」「できなかったこと」を簡単にメモする
- ② 週に1回、タスクの進捗を見直す時間を設ける
- ③ 振り返りを次の行動につなげる仕組みをつくる

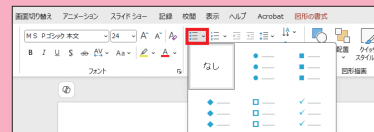
3 箇条書き内で階層を追加する

習慣3：集中力を高める工夫

- 作業中に通知をオフにする
- スマホ、PCのアプリ通知も対象
- ポモドーロ・テクニックを活用する25分集中+5分休憩のサイクル
- 集中できる時間帯を把握して活用する

Hint | [ホーム] タブの [箇条書き] から設定する

箇条書きは、[ホーム] タブの [箇条書き] から設定できます。いくつか提示された箇条書きの種類からスライドの内容になじむものを選択しましょう。

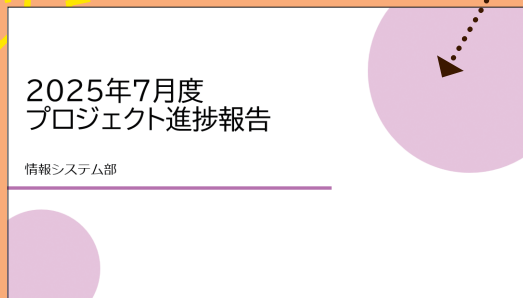


図形の基本操作をマスターする

ここでは、図形の基本操作を練習します。図形はプレゼン資料において、視覚的な効果を高めたり、情報を直感的に伝えたりするために欠かせない要素です。色や大きさ、形を調整し、適切に配置することで、文章だけでは伝わりにくい内容も、よりわかりやすく示すことができます。

Let's
Try!

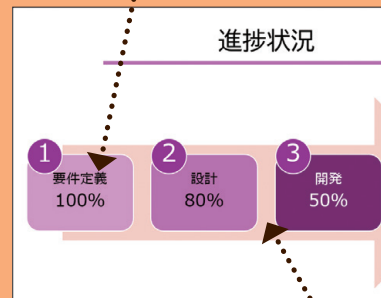
1 図形の縦横比を保持したまま拡大・縮小する



2 図形の色を編集する（プラム、アクセント5、黒+基本色25%）



4 図形の重なる順番を変更する

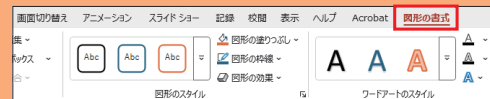


3 図形の角を丸くする（線の結合点「丸」）

5 複数の図形をグループ化する

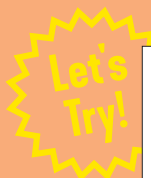
Hint | 【図形の書式】タブで図形の設定を行う

図形をクリックすると表示される【図形の書式】タブからさまざまな設定ができます。角丸の設定は、右クリックメニューの【図形の書式設定】から、【線（単色）】にして設定します。

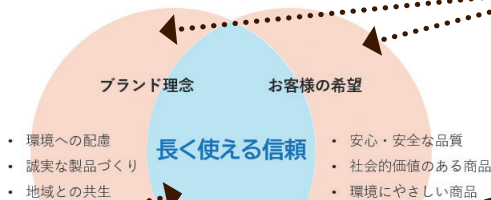


円でベン図を作成し共通点を示す

ベン図とは、複数の円を使って情報の共通点や違いを視覚的に整理する図のことです。特に、円が重なり合う部分は共通点を表し、その部分の色を変えることで、強調したいポイントを明確に示すことができます。ベン図は、顧客層の分析や、サービスの比較、企業と顧客の価値比較などの場面で活用されます。



当ブランドが選ばれる理由



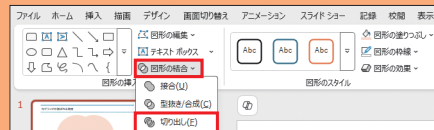
1 正円を2つ配置する

2 重なった部分を切り出し色をつける

3 テキストを追加してベン図を完成させる

Hint | [図形の結合] 機能の中の [切り出し] を活用する

図形同士の接合や、図形の形で型抜きや切り出しを行う機能は、[図形の書式] タブの [図形の結合] にまとめられています。ここでは、その中でも [切り出し] を使用し、図形の重なり合った部分を切り出して色をつけることで、ベン図を作成する手順を確認します。



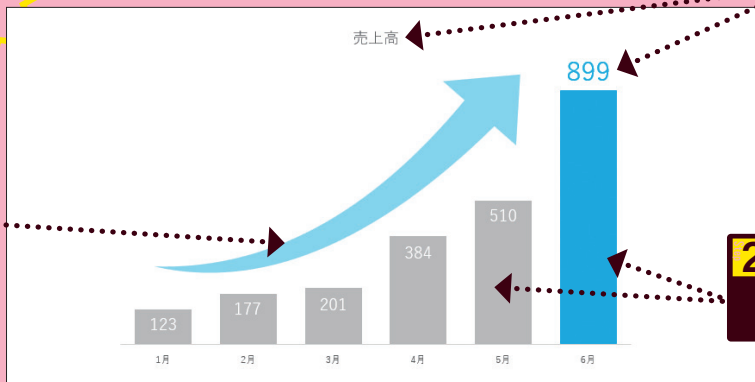


棒グラフで売上高の上昇を強調する

棒グラフは、複数の項目の数量を比較したり、時間の経過に伴う変化を視覚的に示したりするのに適したグラフです。ここでは、そうした棒グラフの特長を活かして、売上高の上昇を強調したグラフを作成します。ここから、Drill32までは、Step1～3までを通して1つのグラフやスマートアートを完成させる問題となります。

Let's
Try!

3 上向きの矢印を追加する



1 棒グラフを作成し、第1横軸、グラフタイトル、データラベルのみ表示する

※「集合縦棒」グラフを使用します。

2 最高値はアクセントカラーに、ほかのデータはグレーに設定する

Hint | データをクリックして、個別にデータを編集する

棒グラフの各データは、データをクリック、もしくは2回クリックして選択することで、項目の全体または個別に編集することができます。上向き矢印は[挿入]タブの[SmartArt]の[手順]にあるものを使います。図形に変換するので、P.142のHintもあわせて確認してください。